

第4回 岩内町地域公共交通活性化協議会 議事録

議 事 内 容

15:00 開会

(小熊会長)

本日は、ご多忙のところ、お集まり頂きまことにありがとうございます。振興局さん、北海道運輸局さんにおかれましては遠路からお越し頂き、心よりお礼を申し上げます。

本日ご出席頂いております、各委員につきましては、日頃から、本町の「まちづくり」に多大なお力添え、またご理解をいただきまして、さらには貴重な時間を割いて頂き、当協議会に参加いただいていることに対しまして、心よりお礼を申し上げます。

さて、北海道新幹線 新函館北斗駅開業まで500日をきっており、高速道路では、余市・小樽間があと4年程度で開通するなど、着々と整備が進んでいるところであります。

こうした高速交通網の整備が進められる一方で、地方では、住民の足の確保が掲げられ、地域における公共交通の充実化が更に求められている時代となっております。

後ほど、事務局より説明がございますけれども、2000世帯を対象にした、アンケート調査、また交通事業者等のヒアリング調査、さらには路線バスの乗降数等調査や利用者のインタビュー調査を実施しまして、その中間報告として、これら公共交通におけるニーズ等を中心に説明いただき、来年度に予定しております「地域公共交通網形成計画」に向け、種々、ご議論、ご意見等を賜りたいと思っております、岩内町にふさわしい公共交通の方向性を検討していきたいと考えているところであります。

本日、限られた時間となっておりますが、委員の皆様には各種のご意見を頂戴してまいりたいと考えておりますので、本日の会議、ご審議の程、よろしく願いいたします。

簡単ですが、開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

(横山事務局員)

ありがとうございました。ここで、議事に入る前に、配付資料の確認をさせていただきます。

お手元の資料ですが、まず1枚モノの配席図、続いて同じく1枚モノの出席者名簿、続きまして会議次第を表紙とした議案、こちらは11ページまでございます。つぎに添付資料といたしまして、**資料1**住民ニーズの把握、**資料2**交通事業者・関係団体等ヒアリング調査、**資料3**町内路線バスの乗降者数等調査、資料3のあとに両面印刷の地図も添付しております。また参考資料といたしまして広報いわない11月号に掲載いたしました記事を添付しております。最後に情報提供といたしまして、岩内共和道路の接続について、本日プレス発表されましたので情報を提供させていただきます。以上6種類の資料となっております。資料に不足がございましたらお知らせ願います。

次に、会議次第の3からは、議長であります小熊会長に議事を進めていただきたいと存じます。

(小熊会長)

それでは早速協議会の方に入りたいと思います。本日の協議会ですが、全委員26名中、キングハイヤーの廣田委員、そして小中学校校長会の本間委員、老人クラブ連合会の花田委員、そして岩内商店街連合会の福島委員、岩内観光協会の松田委員の5名が所用の為、欠席となっております。また4名の代理出席との報告を受けております。

現在、21名の委員の方々に出席していただいていることを最初にご報告させていただきます。

それでは**会議次第の3** 報告事項でですね、報告第1号、第2号、第3号を一括で事務局から報告させていただきたいと思います。

(中川事務局長)

私の方から事務局よりご説明させていただきたいと思います。座って説明させていただきます。

まず最初に、議案の1ページをご覧ください。こちらの**報告第1号**は「第3回岩内町地域公共交通活性化協議会」の結果についてであります。第3回目となります協議会を平成26年9月4日(木)13:30から、この会場でございます岩内地域人材開発センターを会場にしまして、協議会委員26名中21名の出席をいただき、協議会を開催させていただきます。

報告事項では、第2回地域公共交通活性化協議会の結果について、平成26年度地域公共交通の検討調査業務に係る契約の締結について、地域公共交通活性化協議会予算の流用についての3点をご報告させていただきます。

また議題につきましては、議案第1号として岩内町地域公共交通の検討調査業務の作業スケジュールについて、議案第2号として公共交通におけるニーズ等の把握についてを事務局より一括して説明させていただきます。

当日出席しました委員からは、アンケートの抽出方法ですとか、夏期冬期のヒアリングについてご質問をいただいております。

また千葉先生からはアンケート調査の内容について色々とアドバイスを頂いたところがあります。その中で、アンケート調査の内容を一部事務局で調整させていただき、改めて各委員にお知らせしたところで、アンケート内容についてご了承いただいたところがございます。

また当日、その他 ということ国土交通省北海道運輸局が発行しております、「初めて会議委員に任命された方の地域公共ガイド」という冊子を配布させていただいてます。

引き続き、**報告第2号**についてご説明しますので、2ページをご覧ください。

報告第2号では岩内町地域公共交通活性化協議会予算の流用についてであります。記載のとおり、流用したということをご報告申し上げまして216円の流用をさせていただきます。

引き続き、**報告第3号**についてご説明しますので、3ページをご覧ください。

報告第3号は、岩内町地域公共交通活性化協議会規約の一部を改正する規約の施行期日についてであります。地域公共交通の活性化及び再生に関する法律の一部を改正する法律の施行期日を定める政令によりまして、岩内町地域公共交通活性化協議会規約の一部を改

正する施行期日を次のように決定しましたので、報告します。

地域公共交通活性化及び再生に関する法律と言った法律の名前の公布日ですけれども、公布してから6月を超えない範囲において政令で定める日から施行するとなっております。

こちらの法律の公布が5月21日の公布でございます、政令によって施行期日については平成26年11月20日と定められたことから、昨日ですけれども、当協議会規約の一部を改正する施行期日も同日の11月20日といたします。

次のページ、4ページでございますけれども、こちらにつきましては改正後の岩内町地域公共交通活性化協議会の規約でございます、主な改正箇所は法律の改正に伴い、計画の名称が「地域公共交通総合連携計画」から「地域公共交通網形成計画」と改正になったことが、主な改正点となっております。

7ページにつきましては、こちらにも改正に関わる、国土交通省がプレス発表しております政令についての報道発表資料。8ページ目は施行期日を定める政令の参考資料として添付しております。

以上で私の方から報告を終わらせていただきます。

(小熊会長)

ありがとうございました。

ただいま報告第1号 第3回岩内町地域公共交通活性化協議会の結果について、そして報告第2号として平成26年度岩内町地域公共交通活性化協議会予算の流用について、そして報告第3号では岩内町地域公共交通活性化協議会規約の一部を改正する規約について3点のご報告がありました。この報告について何かございますでしょうか。

～無し～

(小熊会長)

無いということよろしいでしょうか。それでは**会議次第の4**に進めさせていただきたいと思います。

議案第1号公共交通におけるニーズ等の把握について、その中間報告です。事務局の方から説明したいと思いますのでよろしくお願いします。

(中川事務局長)

9ページをご覧ください。議案第1号公共交通におけるニーズ等の把握について、中間報告についてご説明いたします。

まず私の方から中間報告の実施概要について、説明させていただいたのち、アンケート等の詳細な説明につきましては、この業務の委託先であります株式会社ドーコンより説明させていただきます。

まず1. 目的でございますが、岩内町地域公共交通網形成計画の策定にあたり、町内の公共交通の現状把握、住民ニーズの把握や地域公共交通の活性化に向けた課題を整理し、岩内町にふさわしい公共交通の方向性を検討し整理することを目的としております。

2. 内容についてであります。今回、ご説明するニーズ等の把握につきましては、3つのニーズ調査を実施しております。

まず一つめは、住民ニーズの把握です。アンケート調査を岩内町内の2000世帯を対象に9月29日（月）に郵便局から発送し、締切日を10月10日（金）と設定させていただき、随時受領しているところで、まだ若干数ではありますが、集計中の部分がございます。

アンケートの対象者ですけれども、20歳代から80歳代の7区分の年齢層としまして、その内訳としましては 20歳代から50歳代→200世帯ずつ（4区分×200 = 800世帯）、また高齢者等のご意見を重視したいとの考えから、60歳代から80歳代→400世帯ずつ（3区分×400 = 1200世帯）あわせて、2000世帯を抽出させていただいております。

結果につきましては、別添で配布させて頂いております、資料1のとおりであり、内容につきましては後ほどご説明させて頂きたいと思っております。

回収数でございますけれども、10月27日現在で、798票。回収率は 39.9% となっております。

なお、アンケート調査票が配布されていないお方で、地域公共交通のアンケートに協力したいという方がいらっしゃる可能性もあることから、事務局としましては町内の公共施設へアンケート調査票を設置しております。

参考までに11ページに設置状況の写真を添付しておりますけれども、設置場所につきましては記載のとおり5箇所を設置しており、設置期間は2000世帯に郵送済みとなった10月2日から10月31日の約1ヶ月間、こちらのアンケートボックスを設置しており、アンケートボックスで回答数は「9件」いただいております。

次のページをご覧ください。ニーズ調査の二つめとして、交通事業者や関係団体等の以降把握（ヒアリング調査）については、記載のとおり実施しております。こちらのヒアリングの結果につきましては、別添の資料2のとおりでございます。

ニーズ調査の三つめとしまして、町内路線バスの乗降者数等調査について実施しております。その中で、乗降者数等調査、バス利用者インタビュー調査について、記載のとおり、実施しております。

結果については、お手元の資料の資料3のとおりとなっております。なお、乗降者数等調査及びバス利用者に対するインタビュー調査におきましては、冬期間の調査として、1月下旬に実施する予定となっております。

引き続き、お手元に配布させて頂いております、資料1から資料3について、(株)ドーコン 佐竹副技師長より説明いたします。

(佐竹副技師長)

ドーコンの佐竹と申します。前回、会議では松木というものが担当しておりましたが、諸事情ありまして私、佐竹が担当させていただくことになりました。よろしく願いいたします。

それでは、早速調査内容について説明をしていきたいと思っております。お手元の資料1をご覧ください。

さきほど中川事務局長から説明ありましたように、2000票を配布しております。まず、

回答者の属性ということで60歳代、70歳代、80歳代の票数を増やしたということもありまして、一番多いのが70歳代の方、28%を占めております。次いで60歳代23%、80歳以上21%と60歳以上の回答者数を合計いたしますと、7割以上 という結果になっております。

性別でいいますと、男性56%、女性42%。注釈でございますけれども、小数点以下を四捨五入してグラフ中に表記しております。グラフ中の表記数を全部足しても100にならない、ということがございます。

また棒グラフはですね、小数点以下の数字も正確に反映しております、例えば30歳代、40歳代同じ7%でございますけれども、棒の長さが違うのは6.6%も7.4%も四捨五入で表記すると7%で表記される、ということでグラフの表示が数字とは違う見え方がすることもございます。ご承知ください。

それでは2ページ目、回答者の年齢と性別でクロス集計をとったものです。多いのが60歳代、70歳代男性、次いで70歳代、80歳以上女性、このあたりがボリュームとしては大きなスポットとなっております。次に回答された方の職業でございますけれども、高齢者の占める割合が多いということもありまして、無職が45%、次いで会社員17%、自営業12%となっております。

次に町内12地区別の回答者数の状況を見てみますと、ほぼ各地区から満遍なく回答が得られた結果となっております。

4ページ目まいりまして、最寄りのバス停について、「あなたの家から一番近いバス停はどれくらいでしょうか」という質問で、最も多いのが5分以内で33%、次いで10分以上が30%、5分から10分以内というのが30%ということで、10分以内ということで見ますと6割の方がバス停から10分以内の場所に住んでいらっしゃる、と比較的コンパクトな町を形成しておりますので、バス停から割と近い方が多いのかなと。

ただこれを先ほどの12地区別で見えますと、状況が違うところが出てまいります。特にですね、栄地区、宮園地区、下の棒グラフでございます、赤いところが5分以内、黄色いところが5分から10分以内というわけなんですけれども、青が10分以上というところでこの栄、宮園地区 この辺がバスの運行経路によって地区別の差が大きく出ており、高台地区も少しバス停から遠い世帯が多い状況となっております。

次に5ページ目、自動車の運転についてお伺いしております。世帯での運転免許証保有者数についてということで、世帯での運転免許証保有者数では「1人」が最も多く36%、次いで「2人」が27%、「免許を持っていない」という世帯は23%でございました。

次に世帯での自動車保有台数。「1台」という回答が最も多く41%、「2台以上」という回答と合わせますと、69%の世帯で自動車を保有していると、また「自動車はない」という回答が29%でございました。

6ページ目、自動車の運転についてということで、現在車を運転されているかどうかということで、「運転する」が59%、「運転しない」が38%、運転されている方にですね、「何歳くらいまで運転されますか」とお伺いしました。で一番多いのが、75～79歳までで28%、次いで80～84歳が25%であり、「80歳未満」を合計いたしますと60%、「85歳未満」で86%ということで、大体80～85歳までは皆さん運転をしようと考えをお持ちになっているようです。

次に7ページ目、運転できなくなったときの移動手段。「車が運転できなくなったとき、どうされますか。」とお伺いしました。一番多いのが「ハイヤー・タクシーを利用する」で40%、次いで「バスを利用する」が27%、また「家族に送迎してもらおう」が17%となっております。

次に8ページ目、まいりまして、目的別の外出頻度、行先、交通手段ということで、それぞれどんな目的で外出する、交通手段をお伺いしております。まず通勤・通学、これは外出頻度としてはほぼ毎日という状況が最も多く40%、次いで週2~3回が8%と、グラフを見ていただいて、無回答・無効回答が44%と非常に多いんですけども、これはです、通勤・通学では出かけないと、ただ出かけないので回答しないと受け止めてよろしいかと思えます。

次に主な行き先として、岩内町内が最も多く、次いで共和町と、その他の中では泊村という回答が多く見られました。

通勤・通学の主な交通手段として、夏と冬で分けて聞いております。一番多いのが自動車を自分で運転、これは夏冬関係なく。次に多かったのが自転車、夏は7%ありました。これが冬どうなったかという、結果徒歩にだいぶ流れて徒歩が冬は10%となっております。バスの利用という点ではあまり多くなく、2%程度となっております。

次に買物であります。外出頻度、これは「週2~3日」というのが最も多く39%、次いで「週1回程度」というのが19%で、「ほぼ毎日」が18%ございました。主な行先は「岩内町」が大半を占め79%、市町村単位で聞いたものですから岩内のどこに行ってるか分からないんですけども、ラッキーとかそういうところが多いのかなと思えます。「共和町」は4%とそれほど多くありませんでした。

主な交通手段は車という回答が一番多いんですけども、あと徒歩・自転車。比較的岩内町がコンパクトにまとまっているためにこういう回答が多かったのかなと。それでハイヤー・タクシーなんですけども、冬になると12%と1割を超えてくるような利用状況、比較的ハイヤー・タクシーが岩内で使われていると思えます。

次に10ページいきまして、通院・治療等。これは外出頻度が「月1回程度」が最も多く34%、次いで「年数回程度」が24%、「月2~3回程度」が14%と、通院・治療等に関しては頻度はそんなに高くない、という状況です。行き先は「岩内町」がもっとも多く58%、協会病院と思われ。それで主な交通手段でバスが夏7%、冬9%、利用頻度はそんなに高くないんですけども、割合が高いのが通院・治療等といえるかと思えます。車が多いのは変わらないんですけども、ハイヤー・タクシーこれも比較的高い割合です。夏9%冬13%、冬は10%を超えてまいります。

11ページいきまして、飲食だとか趣味活動。外出頻度は「年数回程度」がもっとも多く、17%程度、あと回答がかなり分散しておりまして、個人差が大きい外出目的ののかなと思われ。主な行き先としましては「岩内町」がもっとも多く58%、次いで「札幌市」が7%と回答も多くございました。

主な交通手段としては車が30%程度、徒歩が多いんですけども、ハイヤー・タクシーが夏冬とも、12%16%ということで、結構使われている。お酒飲んだあとのタクシー利用とかもこういう回答に含まれているのかなと思われ。以上、外出目的別の外出頻度・行き先・交通手段。

次、12ページにすみまして、路線バスの利用状況についてお伺いしました。

まず、利用頻度でございます。路線バスの利用頻度、使わないと回答された方がもっとも多く40%、次いで「年数回程度」が27%、「週2～3回程度」「週1回程度」が3%と全般的に路線バスの利用頻度が非常に低い結果となっております。

路線バスの利用目的ということで、先ほどの手段のところでもありましたけども、「通院・治療等」がもっとも多く41%、次いで「買い物」が18%、「趣味活動等」が13%という結果となっております。

次にバスを利用した移動先ということで、「町外の移動」がほぼ半数の49%、「町内の移動」は15%となっております。

不満や改善点ということで、これは選択肢での複数回答の結果となっております。路線バスに対する不満や改善点という点では「本数が少ない」がもっとも多く45%、次いで「乗りたい時間に運行していない」、「料金が高い」が27%、「行きたい場所を通っていない」が26%となっております。

次にハイヤー・タクシーの利用状況です。

ハイヤー・タクシーの利用頻度は「年数回程度」がもっとも多く33%、次いで「使わない」が24%となっております。

利用目的、これは「飲食」がもっとも多く34%、次いで「通院・治療等」が29%、アルコールが入ったときや、具合が悪いときにタクシー利用が多いのだろうと考えられます。

ハイヤー・タクシーでの移動先、これは料金の問題もあるでしょうし「町内の移動」が53%、「町外の移動」が7%という結果となっております。

不満や改善点ということで、これは自由記述でご意見をいただきました。料金が高いというのが一番多かったんですけど、運転手のマナーが良くないですとか、遠回りするですとか、そういった意見も多く見られました。

16ページ入りまして、公共交通の今後のあり方ということで、もっとも多かったのが「車を運転しない人にとっては不便なため、もっと便利にした方がよい」で47%、「特に不便を感じないため、今のままで充分である」が25%ございました。

その他意見等ということで、アンケートの最後に自由記入欄を付けました。非常に沢山の意見をいただきまして、貴重な結果になったかと思えます。意見は全て18ページにつけております。あとで目を通していただければ色々と気付く点もあるかなと思えます。

16ページ、17ページですね、代表的な意見を整理して表記しております。まずはですね、町内の運行バスについてご意見を多く頂きました。

- ・買い物、通院などに便利な町内を巡回するバスがあればよいと思えます。
- ・町内移動バスがあるといいです。スーパーとか病院前で降りられる、そして料金も安い方が良いでしょう。例えば1人100円くらいです。
- ・高齢者、特に車を運転する方によって公共交通機関はとても大事です。なので倶知安町のような町運営のミニバスを巡回させるなどして町内の人の循環の活性化を図るといいのではないのでしょうか。

こういったようなご意見が多く寄せられました。

- ・バスの本数、停留所を増やしてほしい

こういった意見も沢山ありました。

次にバスやバス待ち環境ということで、

- ・市内のバスは小型か中型でいいのではないか。
- ・ノンステップバスがあったらいいのではないか。
- ・冬期間の停留所に風と雪よけがあれば大変助かります。

という意見もございました。

広報・PR、サービスの充実等といった点で、

- ・もっと分かりやすく利用できるようにした方がいいのではないか。

といったご意見いただいております。

- ・今のまま維持

というご意見もいただきました。これは今のままでも充分ですという意見と、これ以上は減らさないでほしいといった少しニュアンスの違う、「今のまま維持」といった意見も出ております。

あと不安や不便な点ということで、

・今は運転出来るのだけど、今後のことを思うと岩内町は住みづらいと思う。通院・買い物にもっと利用しやすくしてほしいです。

・車がないため、バスを利用しているが、行きたい場所までバスが通っていないため、バスを降りてから目的の場所まで歩いていくのが大変です。特に雨や雪の日など。

こういった意見も出ております。

料金や福祉施策的展開について

・病院に行くとき、タクシー・バスを利用するので、料金が割安になると良いと思います。

- ・高齢者へのバス料金の割引などがあれば助かります。

ということで、多くの意見をいただきました。かなり参考になるかと思えます。22ページ以降は、実際のアンケート表を参考として掲載しております。

以上が住民アンケート調査資料1の説明でございました。

続きまして、資料2の説明に入らせていただきます。交通事業者・関係団体等ヒアリング調査でございます。こちらかいつまんだ概略の意見を整理してございます。

まず、交通事業者としてバス会社。

・ベースとなる地域の人口が減っていることもあり、利用者は減少傾向にある。ただ最近は下げ止まり感があったが、4月5月の消費税アップに伴う運賃改定により大きく落ち込んでしまった。9月10月になりようやく回復してきた。

と意見をいただきました。

バスの利用状況ですとか、運行状況。

・高速岩内号は、朝は通学・通院の足として使われている。朝の便で小樽・札幌方面へ出て、午後戻ってくるという使われ方。

・円山線は、神恵内線の車両を利用して、ダイヤの合間を使って運行している。今はバス4台で回している状況。

- ・小沢線、雷電線ともに町内の移動ではあまり使われていない。

・岩内高校があるので、高校生が使っている。

とのご意見でした。あとは雷電線、これは

・運行を維持するためにギリギリまで減便している。ただこれ以上減らすと利用者も離れてしまうだろう。雷電線沿線の公共交通は、この雷電線のみなので公共交通事業者としてはこの路線は守っていかなければならないだろうと考えている。

とのご意見をいただいております。

今後の公共交通に対する考え方など、ということで、

・例えば円山線は、温泉地区までの運行をやめて、違う循環線の形態とすることも考えられる。

・行政的に問題があるかもしれないが、岩内協会病院、ラッキー、ホームック、マックスバリュー、ツルハ、しまむら等、八幡通りから国道276をグルッと回すような循環線も考えられるのではないかと考えている。ただ円山線を変更するというのは、神恵内線のダイヤとも連動してくるので、双方の路線を考慮しなければならないだろう。

・循環線として運行するのであれば、双方向の循環は経費的に厳しいが、一方通行であれば、可能性はあるのではないかと考えている。

2ページ目まいりまして

・路線の変更については、利便性を高めること自体は問題ないが、その分利用者が増えていかないと、バス事業者としては厳しい。

・岩内町だけではなく、共和町とも一体で考えてくれれば、デマンドバスなどのニーズもあるのではないかと考えている。

・デマンドバスについては実績があり、実証運行なども含めて、いろいろ協力は惜しまない。

・一部共和町も含めて、循環型のデマンドバスがあってもいいのではないかと考えている。

次にハイヤー・タクシー会社ということで、利用者の推移。

・町を取り巻く社会・経済状況を反映して、外出する回数が減少している傾向にある。

主な利用者層ということで

・平日の朝、高齢者の通院が多く、10時頃からは買い物で利用する高齢者や主婦層が多い。午後はその帰りが多い。

・総じて日中は高齢者の利用が多い状況。市街地内の利用は500～600円台ということで比較的安く、高齢者の方で毎日使う方もいる。かなりの近距離でもハイヤー・タクシーを利用している。

とのご意見をいただきました。

・日常的な交通手段として、ハイヤー・タクシーが町民に定着している。乗る回数が多いが、単価が安いのが岩内の特徴である。

・発電所関連の利用も多い。

・夜間について、代行業は料金が高いため、ハイヤー・タクシーを利用する方が多い。

・ジャンボタクシーは観光利用も見られる。

今後の公共交通に対する考えということで

- ・運行に関する固定費が上がっているが、料金が上げられない状況である。
- ・特に高齢者にとっては、ドア・ツー・ドア、小回りが効く移動手段としてハイヤー・タクシーは便利である。
- ・大きなバスではなく、小さい車両で頻度を多くこまめに対応していくのが重要である。
- ・バスは運行路線が限られていることもあるため、身近な移動の足としてタクシーに対する助成が必要である。

といった意見をいただきました。

3 ページ目いきまして、関係団体ということで、高齢者等の生活の移動手段をお伺いしております。岩内町社会福祉協議会、高齢者の方の普段の移動手段等について

- ・外出目的は買い物と通院が多い。
- ・車を持っている方は、通常は車を利用している。
- ・車を持たない方は、路線バスよりもタクシーの利用の方が多いようだ。
- ・高齢になっても自分で車を運転している方がいるので気がかりだ。
- ・車が無い方は、協会病院への通院も歩いて行っているようだ。
- ・役場に行くにも公共交通がなく、不便である。

といったご意見をいただいております。

今後の公共交通に対する考え方ということで、

・今のバス路線から離れたところに住む方が移動するための交通手段があれば良いのではないかと。

- ・市街地を循環するバスや、タクシー助成もあれば良いのではないかと。

といったご意見をいただきました。

次、岩内町老人クラブ連合会ということで、社会福祉協議会で聞いたお話と被ってまいりますけども、

- ・自家用車を持っている方は、通常は自家用車で移動している。
- ・自転車を経済手段のメインとして移動している方は、冬期間も自転車を利用している方もいる。

・老人クラブの行事については、福祉センターまでの移送サービスがある月曜日と木曜日に、できるだけあわせて実施している。また老人移送サービスの乗車箇所以外の方から、近くを通ってほしいという意見も聞く。

- ・通院については協会病院に行く方が多い。
- ・倶知安や小樽などの町外の病院に通院している方もいる。それらについては路線バスを利用しているようだ。

・町内移動ではタクシーがよく利用されているようだ。買い物・通院の際にもタクシーが利用されている。

今後の公共交通に対する考え方ということで

・ジャンボタクシーや小型バスの利用などにより、市街地を循環する公共交通を考えてはどうか。

次、ホテルグリーンパークいわない。ホテルが送迎バスを運行しているということもありまして、グリーンパークいわないヒアリングしております。

送迎バスの運行についてということで、

・ホテルがメンテナンスのために休館する4日間を除いて毎日運行している。バスは29人乗り。

・バス停を定めて、そこ以外では乗降しないようにしている。路線バスと競合しないように路線を設定、団地を中心に運行している。

・このほかに団体客の送迎などもやっているのので、送迎バスの運行はこれで精一杯。

・送迎バスがあるのとないのでは集客面でだいぶ違う。札幌あたりからお客さんを連れてこないと厳しい状況。

と話を伺いました。で、利用状況なんですけども、

・秋から冬、春にかけて利用が若干増える。5月～10月ぐらいはいろいろ忙しいのやや少ない。

・利用は多いときで1日30人。全く乗らない日というのは年に数回あるかどうか。台風など、極端な気象状況のときは減ることもあるが、少なくとも1便5～6人は乗っている。

・利用者は圧倒的に年配の女性の方が多い。

・ホテルへのアクセスは車がほとんど。路線バスと送迎バスを併せて利用する方もいる。

・2年くらい前に岩内町から銭湯がなくなったという事もうけて、夜の送迎バスも運行している。お風呂のない団地もありますということで、火・木・土の夜にもバスを回している。以前は円山線で5時頃に着いて、6時くらいに帰る便があったが、減便でなくなっ
てしまい、地域貢献という形でほぼ決まった顔ぶれの方が利用している。

とお話しをお伺いしました。以上が交通事業者・関係団体等ヒアリング調査でございました。

続いて資料3説明していきます。乗降者数等調査ということで、バス移動のOD、どこのバス停で乗ってどこのバス停で降りたかというのを岩内町内のバス停に限って、全便調べました。1日だけですけど、全便調査させていただいております。調査路線といたしまして、小沢線、雷電線、神恵内線、円山線、高速いわない号。

ページめくりまして、地図がついておりますけども、お手元にお配りしましたA3の地図の方が見やすいかと思えます。範囲広い方が岩内町全域が入るバス路線です。市街地を拡大したバス路線図というのもつけております。この路線図と照らし合わせながら情報調査見ていただければと思います。

それでは乗降者数調査結果ということで4ページ、小沢線でございます。岩内ターミナルから倶知安行きバス、これについては町内移動で利用してる方、調査当日58名の利用がありましたけども、1名のみということでございました。

倶知安から岩内ターミナルに戻ってくるバス、これについても町内移動、東山で乗って岩内十字街で降りると、これが2名だけの利用と、ほとんど町内移動には使われていないというような結果が出ております。

次に雷電線あります。岩内ターミナルから寿都方面へ行くバス、これについても調査当日20名の利用がありましたけども、町内への移動に使ったというのは6名。岩内ターミナルか十字街から乗って郷土博物館、野東、島野郵便局、七部落、八千代の沢こういったところで降りていると。

寿都から岩内ターミナルに向かってくるバスでございますけども、これも調査当日20

名の利用のうち町内の移動に使ったのが4名ということになっております。これも町内移動の数字としてはあまり大きくないと思います。

6ページ目いきまして、神恵内線でございます。神恵内線につきましては、調査当日町内だけの移動に使ったという方はいらっしゃいませんでした。こういった結果になっております。

次、7ページ目、円山線。これは岩内町内のみの移動ですね。岩内ターミナルからサンサンの湯行きと見ますと、ハローワーク前、第二中学校前、老人ホーム前、円山弓道場前、そしてグリーンパークいわない、この辺りで降りられている方が多いという結果になっております。

今度、逆にサンサンの湯から岩内ターミナル行き、というのを見ますと、グリーンパークいわない さきほどと同じですね、円山弓道場、老人ホーム、第二中学校前、ハローワーク前こういった辺りで乗りまして、岩内ターミナルで降りるという結果になっております。

8ページ目いきまして、高速いわない号、都市間を結ぶバスですので、これもほとんど町内移動の足として使われていないという結果となりました。

次に9ページ目です。この乗降数調査の当日、岩内バスターミナルにて、バスを利用されている方に対するインタビュー調査を実施しました。60名の方から回答が得られました。

インタビュー調査の結果、回答して頂いた方の年齢、性別が男性28%女性72%、おそらく実際のバス利用者の性別に近いのであろうと思います。女性の方の利用が多いのだろうと思われま

す。年齢で見ますと70代が一番多く33%、80歳代も23%と、70歳以上が57%とになっており、半数を超えております。

10ページ目いきまして、回答頂いた方が調査当日に乗車していた路線をお伺いしておりますけども、「神恵内線」の利用が最も多く42%、次いで「高速いわない号」が22%とのことでした。これは乗降調査数のボリュームから見ても大体妥当な値なのかなと思います。

お住まいをお伺いしております。「岩内町」がもっとも多く32%、次いで「泊村」が23%、「共和町」の方が15%でございました。

11ページ目いきまして、バスの利用頻度をお伺いしました。バスターミナルにいらっしゃるということは、日常的にもバスを使っている方が多いということもあろうかと思えます。バスの利用頻度は「月2～3回」がもっとも多く22%、次いで「ほぼ毎日」が20%、「週2～3回」が17%と、アンケートの結果とはだいぶ違う数字になっているかと思えます。

バスの利用目的、調査当日のバスの利用目的をお伺いしたところ、「通院・治療等」がもっとも多く30%、次いで「買い物」「その他」が20%、「その他」につきましては温泉という回答が目につきました。

12ページ目いきまして、目的地ということで、調査当日乗車したバスの目的地と住まいの関係について以下の通り整理しました。「岩内町」に住んで「岩内町」を目的地にした方が20%、次に「町外」に住んでおり「岩内町」を目的地にした方が52%、「岩内

町」から「町外」を目的地に出かける方が12%、「町外」から「町外」、神恵内で来て高速いわない号に乗り換えるですとか、そういう方が12%ございました。

路線バスの不満や改善点ということで、「特になし」がもっとも多く52%、次いで「本数が少ない」というのが37%ございました。

以上、乗降者数等調査でございました。

(小熊会長)

ありがとうございました。長い説明になりましたけども、ただいまの住民ニーズ等の把握の調査について、交通事業者・関連団体等のヒアリング調査について、そして路線バスの乗降者数の調査、3項目に渡って各種調査の報告がございました。ご意見・ご質問があればぜひ頂戴したいと思いますですが、いかがでしょうか。

(千葉委員)

今、ドーコンさんから詳しいご説明がありました。私どもがあちらこちらでお手伝いしている地域とほぼ似たような状況と見うけられます。

そこでですね、ぜひご留意いただきたいというものが一つ二つございますが、皆様方今日の報告を受けてですね、利用者の方々あるいは政財調査でもそうでございますけども、循環バスをというお声が多いようですね。

これはどこの地域でもそうなんです。それぞれの地域で循環バスは便利だと。さて、そこでですね、実際に循環バスをやってみようやるとですね、ほとんど失敗するんです。

こんなはずじゃなかった、行きたいところへ行けない、無駄だ と。じゃあ何故そんなことになるんでしょうかというところでですね、これは循環バスという言葉に誤解があるんですね。循環バスというと、私も普通の人ですのでグルグル回るイメージですね。そうすると例えばお手元に図がありますね、一体どこを回すのかということなんですよ。回って本当に意味があるのかと言われてたら、無いんですよ。

今回のOD調査、どこから出て、どこに出るかという調査結果見ますと、大体は通院だとか買い物、これは中心部が多いわけですね。要は中心部に行きたいわけです。それで周りをグルグル回るとですね、遠回りしてるだとか、こんなはずじゃなかったと必ずなります。

じゃあ何故、循環という表現を使うかという、循環という何となくいつでも走っているから、便利に乗れるんだらうなという期待感とイメージなんですね。ですからお気持ちを実際に図面に落としてみますと、循環ではなく、ピストンなんですよ、ほとんどは。

ピストンでしょっちゅう行き来してるのを、ピストンというそりゃあ無理だろうと、何となくあっちこっち一生懸命行きたいところを見ると循環になる。実際はこういうところで放射状にそれぞれのお気持ちがピストンを期待していると。だからグルーっとどこかを經由して回って、中心部に行くなんて走り方をすると、「こんなはずじゃなかった」となるんですよ。

この事はですね、地形上の制約ってのもありますから、具体的にこういう方法を導入するためにはどうするか、地形上の事も含めていろいろ考える必要があるということですね。

そうすると赤と利益が出ます。利益の中の町内で必要なところだけを循環させればどう

にかなるだろうと。もちろんそういうお考えは一つありますが、果たして効率的かって事になるわけですね一方で。

例えばですね、人間ってのは、これ以前に申し上げたかもしれませんが、歩行限界距離ってのがあるわけですね。歩行限界距離を超えて、移動しようって時には乗り物に乗ると喜ぶわけです。歩行限界距離内だと、まあ歩行限界って名前が付いてるわけですから、歩いていける。ぶらぶらと何の抵抗もなく歩ける距離は大体400～500m台と言われてます。

そうしますと、こちらの地図で400～500で市街地の中見ますと、およそ500ですから、大体入ってしまう。この中を歩行限界距離のどこで見ますかといったら、待つのだったら場所に意味がありませんよね。

ただもう一つ利用者の方々為主に乗降しているポイントというものがありますね。このポイントは外さない方がいいわけですから、路線の運行ルートを工夫するときに、循環という言葉に拘りすぎて、ぐるっと回すようなルートを取ると、ご不満が出るということをよくよく覚えて頂きたいと思います。

具体的な例でいえば、すぐお近くの倶知安町でも同じ事がありました。循環バスといえば、じゃあ循環だということで、相当批判がありました。結果的に市街地の中心を必ず経由するような八の字型、色んな工夫をしました。倶知安は色々工夫した結果、乗降数が伸びてますけど、今私が申し上げたことを含めて、ただ単にご意見の言葉に拘らない方が、プランを立てるときに良いと申し上げたいと思います。

それからもう一つ、デマンド型。これはですね、そこそこに効果は出てまいります。全く路線のイメージがなくて、ただリクエストが来て、じゃあ連絡を受けて必要な方を運んであげましょう、これは言えばフリーですね。タクシーのような利用なわけですから。

これはですね、ランダムに相当動きますから、ある程度乗り合わせて目的地までサービスしようとする、なかなか不便なんですね。ですから基本的なルート、基本的にこういう風に走りますよと、基本的なところは作っておいた方が、利用する側も方向性のイメージが持てますから、これは全くのフリーのデマンド型よりは、基本路線をベースにしたデマンドの方が効果はあります。

私も帯広でかなり重要なフレックス・バスの実験をやった事がございますが、やっぱり色々話し合ってみると、都心部の方向に向かう路線イメージはあった方が良いと、というような意見がございまして、実際にそれは有りだと、参考までにデマンドはよかったということです。

(小熊会長)

ありがとうございました。今、千葉先生から各地の先進事例等を踏まえながらですね、循環バスの話だとか、デマンド型の実証例のお話しですとか、千葉先生に対する質問や、普段の事で気がついたことがあれば聞かせてほしいと思いますが、いかがでしょうか。

(田中委員)

ホテルグリーンパークいわないの送迎バスというのは、どこからどこまで送迎されているんですか。

(中川事務局長)

お手元にございます地図を見ていただきたいと思います。こちらに市街地図あるかと思うんですけど、大体ですね、八興会館という会館が岩内町にございました。大浜団地の付近なんですけども、この図面でいいますと変電所前の右側、大浜というバス停あるかと思うのですが、この大浜のバス停の海側をスタートにしまして、ぐるっと町道を通って、東山というバス停ございまして、そちらの近くにですみどりヶ丘団地というちょっと古い公営住宅ございます。そちらを通ったらですみ役場の新庁舎の前ですとか協会病院、八幡通という札幌から入ってくるとですみ、ボーリング場とかある主要な道路なんですけども、そちらの岩内ボーリング場前でも停まりますし、その後協会病院にも停まります。これは八幡通沿いになります。

それから下の方に降りていく洞爺線、岩内高校付近の団地のところを通ります。そこを通ってずっと山の方に行くという形になります。ちょうどバス路線の空白地区を、こちらグリーンパークいわないさんが送迎していくというルートになっております。後ほど走っているルートに色を付けて送りたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

岩内に住んでる方なら大体今のお話しでイメージはつくのかなと。大浜八興会館出ましてみどりヶ丘団地、そして東校の方を通りまして、八幡通をずーっと走って行って、協会病院のところまでニセコの方に行きます。

道道岩内洞爺線を走ってですみ、東宮園団地を走って、倉島牛乳の牧草地をぐるっと回って、新月商店を走って、そこから真っ直ぐグリーンパークへ行くというルートになりますので、バス事業者さんが全く走らないルートだと考えていただいで結構だと思ひます。

(田中委員)

町内の団地だとか、そういうところの利用者さんを送迎する、という感じなのでしょうか。

(中川事務局長)

こちらにつきましては、停まっている団地、結構古い団地でお風呂がないですとか、東宮園団地はお風呂あるんですけど、そういった住宅密集地の部分ございますので、そういった路線をグリーンパークさんで走行しているというお話しになります。

(小熊会長)

その他、何かありますでしょうか。

～無し～

(小熊会長)

調査の方なんですけども、どちらにしても引き続き、乗降数調査、冬期間のバス利用者インタビュー調査実施する予定になっております。それも踏まえまして地域公共交通網形成計画の策定にですみ、基礎部分となります地域公共交通の検討調査ですみ、これからも

進める予定となっております。

会議次第進めさせていただいてよろしいでしょうか。それでは**会議次第の5**その他でございませうども、事務の方からご説明させていただきます。

(中川事務局長)

事務局からその他ということので3点でございます。まず一つめでございますけれども、次回の会議日程でございます。次回の会議、第5回目となる会議をスケジュールでお示ししてまうけれども、2月上旬から中旬に開催したいと考えてございませうので、よろしくお願ひします。日程等決まりましたら、改めてご連絡差し上げまう。

それから二つめでございますけれども、皆様の資料に参考資料という形でA4サイズ1枚モノであげさせていただいておまう、広報いわない12月号という記事でございます。

こちらに点線で囲っている枠組みですね。今回公共交通について記載させていただいておまうけれども、こちらにつきまうは、私ども事務局としてですね、より多くの町民の皆様とお話する機会を設けたいな、と考えてございませう。

そういったことので共に公共交通に役立てるためにですね、各町内会ですとか、各種団体の集まりの新年会ですとか総会にですね、私ども事務局がお邪魔させていただいて、今までの公共交通に関する取組ですとか、このアンケートの結果ですとか、今後公共交通に対するご意見を聞きたいなと考えておまう。それで声をかけていただいたら、どこでもご説明に伺いまうというお知らせの文書でございます。

各団体の方もいらっしまうので、是非事務局まで気軽に声をかけていただければ、時間の都合のつくかぎりお邪魔して、ご説明させていただきたいと考えておまうので、よろしくお願ひします。

三つめでございます。交通事業者の方にも結構出席いただいていることから、本日、小樽開発建設部さんの方で報道発表されておまう、岩内共和道路の切り替えについて、報道発表ございませう。こちらについて情報提供させていただきたいと思いまう。

国道276号の交点ということのでございませうども、結構交通量ございませう、今年の12月5日(金)午前9時にですね、現在の道路から岩内共和道路に切り替えを行いたいという資料でございます。

この切り替えに伴いまうして12月1日から9日まで、終日片側通行となっております。また10日以降は昼間も片側通行となっておりますので、先ほど私も説明させていただきましたが、とても交通量の多い路線でございます。時間に余裕を持って運転していただいたいと思っております。

(小熊会長)

ありがとうございます。その他の部分で全体を通じて何かございませうでしょうか。

～無し～

(小熊会長)

それでは本日予定しておまうした議事全て終了いたしました。先ほど事務局から次回の

開催日程について連絡ありましたけども、第5回は来年の2月上旬から中旬に予定しております。多忙なところを大変恐縮ではございますけども、出席の方是非よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは第5回岩内町地域公共交通活性化協議会を終了させていただきたいと思ひます。本日はどうもありがとうございました。

16:10 終了